

# 生活ナビ

厚生労働省は、本年度から全ての介護事業者に利用者から職員に対するハラスメントの対策強化を求めた。介護従事者の労働組合の調査では、パワハラやセクハラなど、何らかのハラスメントを受け

た人は7割に上り、離職につながるものが懸念されている。11日は「介護の日」。誰もが年を取り、介護サービスを利用する可能性がある中、ハラスメントが人権侵害や犯罪になることを認識する必要がある。(塩崎恵)

## 利用者・介護従事者 ハラスメント対策を



「直行直帰で働くことが多いホームヘルパーは、嫌なことがあっても自分の胸に納めて、ストレスがたまる。話すことが大事」と訴える藤原さん(東京都内)

### 叱責、抱き付き、我慢したけれど

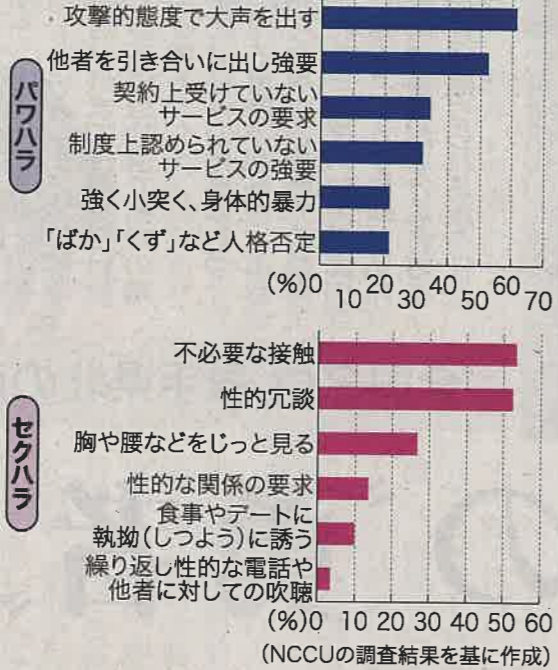
「こんなことも分からないうの。親の顔が見てみたい。しついでしょ」と怒鳴られたときは苦しくて帰らなくなりました。

そう打ち明けるのは、東京都のホームヘルパーの藤原さん(66)。洗濯をお湯で行わなかったため、利用者から叱責(しつせき)された。口答えをすると一層怒るため

「すみません。至らなくて」と謝った。

介護従事者の労働組合「U Aゼンセン日本介護クラフトユニオン(NCCU)」が2018年に約2400人の組合員から回答を得たアンケートでは、74%が利用者・家族からハラスメントを受けたことがあり、そのうち94%がパワハラを訴えている。

#### 利用者・家族からの主なハラスメント



### 被害7割 環境改善へマニュアル

藤原さんは他にも契約のないサービスを要求され断ると、怒られることが多い。「介護職は何でもやってくれる人ではない。理解が不十分だ」と訴える。

介護現場ではセクハラも問題になっている。NCCUの調査でハラスメントを受けた人の40%がセクハラを訴えている。抱き付き体をなで回すなど、不必要な接触や性的冗談、訪問時に利用者がアタルトビデオを見るなど男女にかかわらず被害に遭っていたことが分かった。

ハラスメントを受けた介護職は強いストレスを感じ、精神疾患になる人もいる。離職につながる可能性が高い。介護職は人手不足が深刻で、厚生労働省は日本の高齢化がほぼピークを迎える40年度に、全国で介護職員が約280万人必要となり、現在より69万人不足

### 「マナー守って」伝えよう 城西国際大学准教授 篠崎 良勝氏

利用者の日常生活の場で介護が行われるため、いくらかルールがあってもハラスメントが起きやすくなる。介護はその人らしさを表現するものだが、ハラスメントが続けば雑なケアになりかねない。利用者も家族も介護職も望んでいない。さらに犯罪として訴えられる可能性がある。

どの業界もハラスメントはゼロではない。だからこそ自分たちで守る必要がある。利用者に触られたら許さない、暴言を吐かれたら笑って済まさない。何がハラスメントかを知り、利用者に伝える必要がある。そうしないと、介護職による虐待につながりかねない。



## 村逸品

### 岩見沢ジェノベーゼ

北海道岩見沢市  
北海道岩見沢市のふるさとふれあい店が作る。スペイン産オリーブ油と地元産のバジルやラッカセイをバランスよくふんだんに使用した。特にラッカセイは、



いまどきの子どもたちはお手伝いさせられることがない

行きます。カツオが草野球の仲間に入れてもらうために、友達のをきょうだいをおぶって遊んでいるのを通り掛かりのサザエさんが見て仰天するという笑い話。



八十八の仕事をして

先日の新聞記事を言っとしました。日本は今、食料自給水準で推移している。多くの食べ物を輸入するを得ない状態にある。もしも、何らかの理由からの輸入が完全に止ってしまったら、日本当にどうなってしまうか。思うと、大変不安に思った。

私が小さい頃は、にご飯粒が一粒も残るように食べなさい。人は、お米を収穫する



女の階